

難聴通級指導教室「自立活動」学習指導案

児童
指導者

話し合い活動を通して、積極的に自分の考えを話す力を高める指導の工夫

1 単元名 学習発表会を成功させよう

2 児童の実態

本児Aは、本校きこえの教室で通級指導（週一個別4時間・グループ1時間）を受けている。聴力レベルは、高度の感音性難聴で、両耳に補聴器を装用している。しかし、小さい声や後ろから普通に話しかけても聞き取れないことがある。また、学校での学習活動の経験などから語彙量が増えてきているが、周りの児童の語彙量に比べると少ないため会話が通じにくいことがある。きこえの教室でも、教師や友だちの発言の内容が理解できず、聞くことに精一杯で自分の考えを発表する場面が少ない。

本児Bは、本校きこえの教室で通級指導（週一個別3時間・グループ1時間）を受けている。聴力レベルは、中度の感音性難聴で、左耳に補聴器を装用している。補聴効果がよく、近くであれば普通の声の大きさの指示は聞き取ることができる。しかし、後ろから話しかけたり周りがざわついたりすると、話を正確に聞き取ることができないことがある。語彙については学年に応じた知識をもっているが、聞き間違いをして覚えていたり、曖昧に理解していたりしていることがある。自分の思いや考えを積極的に発言するようになってきたが、分からないことや不安な内容があると消極的な発言になる。きこえの教室では、学級での活動の様子や学校行事に参加しての感想などを積極的に発表している。しかし、関心のない内容のときは相手を意識せず伝わりにくい話し方になるときがある。

本児Cは、本校きこえの教室で通級指導（週一個別2時間・グループ1時間）を受けている。聴力レベルは中度の感音性難聴で、左耳に補聴器を装用している。補聴効果がよく、先生の指示や友だちの発言を聞き取ることができる。しかし、周りがざわついていると、話を正確に聞き取ることができないことがある。また、日常生活に関係した語彙は多く知っているが、内容を曖昧に覚えているものがある。そのため通常学級やきこえの教室でも、自分の意見に自信がなく積極的に発言することが少ない。

今年度は、2年生と4年生と5年生と学年・聴力レベルがそれぞれ違う3名のグループで学習を行っている。学年は違うものの共に難聴グループであるという仲間意識があり、教室内ではみんな仲良く学習している。1・2学期と、学校行事等について話し合ったり、時の経過に関する概念の学習を行ったりしてきた。話し合う場面を多く設定しており、児童間で話し合いを進めることができるようにしている。グループ内の雰囲気も良く聞くこと・話すことの意欲は見られるが、話している相手の口元が見えなかったり、声が小さかったりすると聞き取れないことがある。また、学年の差により話の内容が理解できないため、話し合いが徐々に消極的になってしまうケースがある。

これらのことから、基本的能力における本児らのコミュニケーション課題を次のように考える。

児童A－相手の話が聞き取りにくく理解が不十分であるため、自分の考えを発言することが難しい。

また、語彙力が弱いため相手に分かるように伝えることが難しく、発言が消極的になる。

児童B－相手の話し方が速かったり、聞きにくかったりしたとき、話の内容が分からなくなりそのまま思っていたことを話したり、無口になったりして、話し合いの内容が曖昧になり深まらないことがある。

児童C－相手の話を聞き取れない時があるため内容理解が曖昧だったり、自分の考えをまとめて話すことに自信がなかったりして、積極的に自分の意見を発言することができない。

3 単元について

本児らは、友だちと関わりをもつことが好きで、仲良く学習したり遊んだりしている中で話をしていく。しかし、本児らのコミュニケーション課題に関わると消極的になり、自分の考えを話さなくなる場面が見られる。このことから、指導にあたっては、グループ学習での話し合い活動を通して、相手の話や考えの聞き取り方、また自分の考えを発言する仕方を経験させることによって、学習や日常生活の中での生活の中でも、友だちに対して積極的に発言することができると考え、指導を進めてきた。

本単元では、3月の教室行事である「学習発表会」で、どのようなめあてをたて練習に取り組むことにより成功できるかという話し合い活動を通し、積極的に自分の考えを話し合うことを目標としている。

4 指導に当たって

本単元の指導に当たって、次のようなことに留意していきたい。

「みとおす」段階では、教室行事である「学習発表会」の発表内容やめあてを決め、どのように練習していくかを考える。その際、本児らが主体的に話し合い学習に取り組めるように、自分たちの力で話し合いを進められる方法について確認する。また、単元計画を明確にし、見通しをもたせる。

「ふかめる」段階では、1時間毎の学習のめあてをたて計画的に学習が流れるようにする。そのことで、1時間毎の学習活動が分かり、めあてをもった学習に取り組める。また、話し合い活動では、進行計画表を準備し、進行役の児童と確認する。そのことで、進行役もゆとりをもって進めることが出来るので、相手の発言を集中して聞くことができ、相手の意見と比べながら自分の考えを発言することができたり、話し合いに深まりをもたせたりすることにつながると考える。

「まとめる」段階では、1時間毎の話し合いを振り返りながら、互いに評価し合うとともに自己評価を行ない積極的に話し合ったことを確認し、日常での活動にも生かせるように働きかける。

5 単元の指導目標

(1) グループとして

話し合いの内容を理解し、積極的に自分の考えを話すことができる。

(2) 個人として

児童 A	聞く	・相手の話を正しく聞き取ることができる。
	話す	・周りが聞く姿勢になったことを確かめて、はっきりした声で話をするすることができる。
児童 B	聞く	・相手の話の要点を正しく聞き取ることができる。
	話す	・分かりやすい内容で、相手に伝わるように話をするすることができる。
児童 C	聞く	・相手の話の要点をつかみ、聞くことができる。
	話す	・話し合いを積極的に進めることができる。 ・分かりやすく要点をまとめて話すことができる。

6 指導計画

本単元名 「 学習発表会を成功させよう 」 (6 時 間)

段階	学 習 課 題	学 習 内 容	時 間
みとおす	単元計画を立てよう。	・単元計画を立て、学習の見通しをもつ。 ・指導目標を確認する。	1時間
ふかめる	今年の発表内容を考えよう。	・前回の発表を見て、今年の発表内容を考える。	4時間 (本時3時)
	めあて・練習内容を考えよう。	・成功させるためのめあてや練習方法を考える。	
	前時のめあてをもとに練習し、友達のよさを見つけよう。	・めあてをもとに練習し、友達のよさを見つける。	
	友達の意見をもとに、発表の練習をしよう。	・友達の意見をもとに、発表の練習をする。	
まとめる	話し合い活動についての振り返りをしよう。	・互いに評価し合うとともに自己評価を行ない、積極的に話し合った事を確認する。	1時間

7 本時の指導

(1) ねらい

個々のめあてに沿って発表の練習し、自分や友だちの発表の良い点・改善点についてを話し合う活動を通して、積極的に自分の考えを話すことができる。

(2) 展開

段落	学 習 活 動	教 師 の 関 わ り	評 価	達成できない ときの手立て
み と お す 5	1 本時の学習活動と課題を確認する。 練習して友だちの良いところなどを見つけよう。	・見通しをもって取り組めるように、学習活動を確認する。 ○今日の話合いの流れを確認し、見通しをもたせる。 研究内容 2		
ふ か め る 3 5	2 個々のめあてを考える。 3 練習をする。 4 練習の様子をビデオで振り返る。 ・ビデオを見る前に、振り返るポイントを確認する。 ・ビデオで振り返り、自分や友だちの良かった点や頑張る点を用紙に書く。 5 自分や友だちの発表の良い点・改善点について話し合う。	・各自のめあてを決め、用紙に書き表示する。そのことで、常に振り返りができるようにする。 ・めあてを意識させながら、練習を進める。 ・ビデオに撮り、振り返る時の資料にする。 ・進行の仕方等を資料で提示し、児童Cと確認し話し合いを進める。 ・振り返るポイントについて話し合わせ、ポイントを用紙に書き、各自の視点をもたせる。 (話す速さ・声の大きさ・姿勢など) ・児童だけで進行させ、教師は児童Aにつき、分からない時に支援する。 ○自分・相手の良い点等を評価し発表する。 研究内容 2	○自分や友だちの様子について話し合うことが出来たか。	★振り返りを記入した用紙をもとに話し合いの進め方を教える。
ま と め る 5	6 学習のまとめをし、次時の学習内容を知る。	・本時のめあてをふり返し、他者、自己評価をさせる。 ○自分のめあて、単元目標が達成できたか振り返る。 研究内容 2	○各自のめあてを振り返ることができたか。	★達成できなかった訳を確認し、その中で良かった点を伝え、次時につながる目標を話す。